

科学の面白さを体験しよう

わくわくドキドキ科学教室

身の回りにある日用品を使って、科学の楽しさを伝える「わくわくドキドキ科学教室 in 長島」が7月28日は町開発総合センターで、29日は町文化ホールで開催されました。

今回の科学教室では、14の実験コーナーが準備されました。町内の小中学校をはじめ、鶴翔高等学校、出水高等学校の生徒や先生の実演や、子どもたちに体験してもらいながら、科学の面白さを伝えました。



↑鷹巣中学校のロボコンで、真剣に操作する児童

ト」の九州大会に出場した生徒らで、ロボコン体験コーナーを出展。ロボットをリモコンで操作しながら、発泡スチロールの立方体を何個ゴールできるかチャレンジするゲームで、子どもたちは楽しみながらも真剣にゲームに取り組んでいました。出展した鷹巣中学校3年の原田望央さんは「ロボットは昼休みや放課後を使って、みんなアイデアを出し合いながら、1カ月くらいかけて製作した。今回、参加した子供たちが喜んでくれて嬉しい」と笑顔で話しました。



↑鶴翔高校の実験に興味津々な児童ら

鶴翔高校は、水を状態変化させて、気体にする「蒸発と沸騰」の実験を実演しました。高校生が実験器具を使い、水を温めたり、冷やしたりして、状態変化させ、蒸発と沸騰の違いを子どもたちに分かりやすく、ユーモアを交えながら解説していました。



→身近な日用品から科学を楽しむ参加者

北海道東神楽町の小学生14人が7月27日から30日までの4日間、サマースクールとして、本町を訪れました。

花のまち東神楽町との交流事業 ながしまサマースクール

東神楽町は、本町と同じ花のまちづくりを推進しており、平成26年度から児童たちの交流事業を行っています。

28日は早朝から、薄井漁港で水揚げされるブリ出荷状況を見学しました。このほか、魚釣り体験で釣った魚を濱島勇人さんにさばき方を教わりながら、自ら調理して、長島の新鮮な海産物などを味わいました。

28日の夕方から29日にかけて同世代の子どもを持つ家庭へホームステイし、海やプール、花火などで受け入れ家庭との思い出をたくさんつくりました。

最終日の30日は、長島町開発総合センターでお別れの式が開かれ、東神楽小学校5年生の渡辺杏さんが「長島町を楽しめた4日間でした。受け入れ家庭のかたと仲良くなれて良かったです。次は、東神楽町にも遊びに来てください」とあいさつしました。「花のまち」の交流から、児童らの心にも友情の花が咲きました。



↑受け入れ家庭との別れを惜しむ児童ら



↑手間取りながらも真剣に魚をさばく児童